DSTF第2回会合（テレカン）

日時：令和2年1月24日（金）9:30～11:00

■　参加者(順不同、敬称略)：

　富士通研究所（TFリーダー）：松倉

日立製作所：東村

Panasonic：川口

インターネット総合研究所：水嶌

　慶應/W3C：芦村

事務局 総務省：地主（記）

■　議事（※敬称略）

・レビュー方法

事前レビューを分担し、レビュー者の修正版をベースに読み合わせ

事前レビューは、翻訳文を読んでみて、内容のおかしいところがあれば、原文と突き合わせる。

それ以外は、翻訳文を読むだけでOKとする。

（原文と突き合わせながらレビューするのは時間がかかりすぎて、現実的ではないことから上記の結論となった）

○テレカン後のメール審議で決まった内容

・3章の用語定義については，以降の章の基盤になる重要な部分なので，できるだけ原文と齟齬のないように頑張る。

この部分に関しては、訳文のわかりにくいところは、原文でもわかりにくいケースが多いので、Editor's noteで補足するという結論。少なくとも、3章に関しては、複数人が原文と突き合わせているので、一定の品質は保てているはず。

・3章に関する上記の取り組みについては，「取組方針」に明記する。

・なお、レビュー済みのところを個人的に再チェックすることを咎めるものではない。

・用語定義については、4章以降（本当はTD文書も含めて）を読んでから、最後にEditor's noteを含めてどうするか考える。

最終的な「Editor's note」を整えるのは最後としても、議論の途中でなされたコメントは随時記録し、後で編集の際の参考にする。

○分担及び方針

・6.1章は松倉

・6.2と6.3は芦村

・レビューの方針：ですます調で統一

・指摘のうち、意味は同じだが表現が異なるという部分については、できれば同じ意味で意味が通ればというところで妥協して頂きたい

芦村：TTCはですます調が多いのか。

松倉：統一されていればどちらでも構わないと思うが確認する。

芦村：SVGのJISは既存のW3C的言い回しを見ながらやるのが良いと思う。

松倉：個人的にはW3C的な言い回しというものに慣れていないので突き合わせながらやるというのはかなり負担が伴う。

東村：私も慣れていいない。最後にまとめて見るではだめか。

芦村：用語的なところかもしれないが、レビューの中でやった方が良いかもしれない。

○レビュー

・1章の1ページ目から読み上げ

(最初の方は聞き取れず)

芦村： TTCで言い回しが決まっているのであればそれに従うが、「規定」だと思う。

松倉：他に「規定」という言葉を使っていたところがあったので、避けようと思い、TTCでの表現をチェックした。どちらでも構わない。「規定」で良いか。

川口：悩ましい。どちらの例もあるようだ。

松倉：「規定」というと標準のように聞こえなくなると思った。「W3C規定」とあれば標準のように読めるが･･･。

芦村：その辺をTTC的に意訳してしまうか、recommendation勧告の英語をそのまま日本語に持ってくるのかというスタンスの違いかと思う。

松倉：読んだ人がどちらに馴染みがあるのかということだと思う。誤解されても困るので。W3Cがこう言っているとしてもそこが伝わらなければならない。

芦村：大前提としてW3C勧告を日本語にする際は、W3Cの英語をそのまま意訳しないという条件があるのでそれが悩ましいということか。

松倉：W3Cで規定しているのは英語の勧告のみ。それを日本語にする際にも規約があるのか。

芦村：基本的には意訳すると引用という捉え方になってしまう。

松倉：意訳じゃなく　･･･【接続切れ】･･･

松倉：こだわるとW3C的にはどのような書き方になるか。

芦村：今日のところは3章から見たので、2章のところは見ていないが、先週、conformance＝「適合」、normative＝「規定」という話だったと思う。ここは英文では、as well as sections marked as non-normative となっているので、規定的でない、あるいは、参考情報というように訳し、「参考情報として定義されている部分・章以外については、」というような訳し方になるのではないか。

松倉：そうだとすると、「規定」と「参考情報」にすれば良いか。英語の名詞をどう訳すかということだけ決めれば良いと思うが。それ以外の言い回しについて、皆に強制することは難しいと感じる。英語と日本語の対応表があれば良いと思うが。

芦村：conformanceやterminology【?】、glossaryという枠が決まっているあたりについては、JISの2つの例を見た方がイメージわきやすいのではないかと思いURLをメールでお送りした。

松倉：ここでこの議論に時間を使うのはもったいないので、私の方で見て、修正案を出すということでよろしいか。

芦村：では、2章については、一度見て頂いて。

松倉：2章はその他特によろしいか。

○3章　読み上げ：芦村

松倉：先に、「本章標準規格」というところは指摘があったので修正する。

芦村：タイトルの「用語定義」は、JISでは「用語」を　terminologyというときと、definitionというときがあるのが、terminologyだけが元のタイトルだったので「用語」ということだと思うが、「用語定義」でも良いと思う。皆さんの好みでどちらでも良い。「以下の用語を使用する」の後がわかりにくいので英語ベースに確認すると、「WoTの接頭辞は、とくにWeb of Thingsにおける概念のために再定義された用語であることを明示するために用いられる」と書いてあるのでその趣旨の日本語にすべきかと思う。用語のタイトルだが、日本語翻訳がメインの趣旨なので、カタカナを前にして英語を後ろにして、スラッシュも用語の一部だと見なされてしまうので、書き方としては、「カタカナ（元の英語）」というタイトルにすべきかと思ったが、いかがか。東村さんからの指摘もあったが、「対話アフォーダンス」は「相互作用アフォーダンス」の方がすっきりする。機能を起動する時に使われる「allow」は、「起動できるようにする」が正確かと思う。「状態を変更するとき」もmaniplateなので、「操作するために」が正しく、ランプのオンオフも箇条書きで「・」を使った方がいい。ランプ等のカタカナも「電灯」、プロセスは「手続」、トリガーは「引き金」のように日本語にすべきかと思う。しだいにランプを暗くするというところは、overtimeなので、「時とともに」とするのが良いかと思う。「次第に」だとgradually。Binding templateに行くと、IoTプラットフォームの実現のためというところで、ここはcommunicationなので、一旦「やりとりを実現する」という形にしていた方が、意味が伝わるのではないか。読みやすさのため、「ための」の後に句読点を入れるべき。blueprintとcollectionもそのままでも分からなくないが、「青写真、計画、図面、設計書」やcollectionも「集合」に訳した方がわかりやすいのではないかと思う。次の長い部分もprotocolスタックをやるのはもちろんだが、TDマッピングもやるという優先度の趣旨で書いてあるので「必要なプロトコルスタックや専用の通信ドライバーの実装で留意すべきことに加えて、WoTTDを用いて相互作用フォーダンスをプラットフォーム固有のメッセージに対応づけるための情報を提供します」と流した方が正確かと思う。

松倉：皆さんいかがか。

川口：これは、原文に遡ってこのレベルまで厳密にやらなければならないのか。なんとなく、訳文を読んで違和感が無ければ良いという雰囲気で流してしまったが。

松倉：元々考えていたのは、訳文を見て、問題が無ければというチェックのつもりだった。原文とやるとすると、（NRIを使って）元々の原文から訳してもらっているところの意味がなくなってしまうので、そこはある程度信じるが、読んだときの意味の感触が今までの議論と違うようであれば直す、その際に必要があれば原文を見るというイメージだった。

芦村：半分諦め始めているが、2章3章は肝なので原文を突き合わせた方が良いのではないかと思った。4章以降は意味が通れば良いのではないか。3章だけ頑張った方がいいと思うが。

松倉：共有しているものが、東村さんと川口さんの指摘が入っていないものであった。Actionのところprocessは川口さんの指摘を踏まえて「処理」に直していた。3章までは、私も原文と突き合わせているが、日本語を全部直すという気にはなれなかったので、意味が誤解されているものは直している。これ以上直すとするならば、表現も意訳しなければならず、そこまでやろうとすると統一感のために誰かが一人でやらなければならなくなるし時間がかかる。どこまで真剣にやるかというのが議論のポイント。私もかなり川口さんの気持ちに近い。今日来られていないが、松田さんにも同じことを言われている。東村さんはいかがか。

東村：自分もそこまで読み込んでいなかったので、このペースでやると、3章でも重いかと思っている。

松倉：東村さんの指摘はかなり読み込まれている印象を受けた。どの辺をベースにするか。4章はまだ目を通していないが、4章はもう少し原文直訳に近いように思う。私は川口さんの意見に賛成だが、芦村先生はどうか。

芦村：3章は、定義なので頑張った方がいいと思う。

松倉：3章は皆さんに見て頂いているのでそれで良いと思う。3章で用語を決めてしまえばブレがなくなる。「アクション」とカタカナで書いてあるのは、もし日本語を後ろで使うのであればこの言葉かと定義したいのでスラッシュでとりあえず書いた。Consumer thingsもどう訳すかということがあったので、「コンシューマーシングス」のままいくということもあった。3章はきちんと議論すれば良いと思う。

芦村：3章は頑張って、4章以降は流すという線が良いのではないかと思い始めている。たしかに、しんどいので。

松倉：では、その線で行きましょう。やり始めると悩むので、その辺はご理解いただければありがたい。

芦村：皆さんにはまず日本語としての違和感と英語と突き合わせた方が良いと思った場合には突き合わせてみて、その上でJIS的な定訳がある場合は私も思い出しつつJIS的な細かいコメントは重点的にさせていただくという形としたい。まずは担当の方の違和感ベースで巻いていくという形で。

松倉：賛成です。

松倉：3章のところは東村さんのベースにやらせていただく。そこに川口さんのコメントを反映している。今頂いたコメントについては極力直したいと思う。

「コンシューマーシングス」から読み上げ：川口

松倉：ここはいかがか。特にないか。

芦村：大まかには、英語のままで良いという印象。consumerもコンシューマーで良いのではないかと思っているが。

松倉：そうすると「消費者」に間違えられる。「使う人」という意味だが。

芦村：「利用者」というと人っぽくなってしまう。つまり、ハードウェアだったりソフトウェアだったりするところがあるのに。

松倉：まだ「Thing利用者」という言葉で本文を変換しているわけではないので、削って、、

･･･【接続切れ】･･･

松倉：･･･使われていないからどちらでもいいが。

芦村：コンシューマーは専門用語あるいはかたまりとしてXYZ的な文字列のシンボルという位置づけで使うと思うから、訳さない方がいいのかもしれない。

松倉：わかりました。では、コンシューマーは最後またどれを訳すか否か確認するようにする。

「エッジデバイス」から読み上げ：松倉

松倉：東村さんのところが音声のdelayが多いようだ。

芦村：「シリアライゼーション」は考えた方がいいかもしれない。基本的にはHTML5とか、XML、JASON等のときにファイル化されているあるいはsocketに流れているということだと思うが、DOMのようなツリー構造じゃないという趣旨だが、どのように言えば良いか、ちょっと探ってみないと何とも言えない。

松倉：いろいろと見てみたが、良い訳がない。意味は芦村先生がおっしゃったとおり。マニュアルも「シリアライズする」と逃げている。ここはシリアライズで良いのではないか。

芦村：とりあえず「シリアライズする」にして、良い訳語が見つかったら差し替えるとうことで。

松倉：動詞にするということか。名詞の方が良いかと思ったが。

芦村：「シリアライゼーション」で良いと思う。

松倉：ではここはこのままで。「ハイパーメディアコントロール」の方は良いか。では、問題ないということで。

「インタラクション」から読み上げ：芦村

芦村：この辺は全般的にイメージがわかないところが難しい。

松倉：私の方でも随分見たが、原文には合っていると思う。今のままでよろしいか。

川口：原文の問題なのでどうしようもない。

松倉：原文も誰かが書いていると、わかりにくいとしてもそこを遠慮してそのまま直すことをしていないで残っている。原文以上を書かないという方針だとこれ以上書けないと思う。

川口：（わかりやすくすることを）やるのであれば、別タスク。時間をかけて解説書を書くイメージかと思う。

松倉：もしくは用語定義くらいは書いてもいいか気もするが。

芦村：理想的に言うと、CRのテストスイーツのテストレポートを書くつまりアサーションを抜き出してみると、仕様書が矛盾しているところがばれてしまうが、翻訳も同じことが言える。プロセス的には、本来は翻訳も並行してやるのが良いのだと思う。

松倉：そのとおりだと思う。まだ反映されていない【？】が結構ある。

芦村：1.0だからということでプライバシーグループも押し切ってproposedになるので、2.0で完成するという方針で割り切ることで良いのではないか。こ

松倉：そのとおりだと思う。ただ、最近日本人の方がかなり細かい指摘をされていたが、それであればついでに言ったのにということがあった。

芦村：ここはちょっと難しすぎるので、もう少し確認する宿題とさせてほしい。

松倉：提案だが、W3Cの文書は変えないが、TTCの文書として出すときに、追加で付録としてここの部分の解説書を書くのはありかと思う。伝わらないと苦しいので。

芦村：カッコで挿入するとか、エディターノートのようにする等、補足した方が良いと思う。

松倉：それを許すか。「エディターノートは原文にはありません」と書いておくということか。

芦村：ええ、ここはTTC文書として出したとして書いたとすれば良いのではないか。

「プライバシー」から読み上げ：川口

芦村：この辺も、PKIは何の略なのか、一つも明らかになっていない。

松倉：PKIくらいはW3Cでも常識として扱っているのではないか。

芦村：Verfile Credential Data Modelでは、ちゃんとスペルアウトしてあって、専門用語のprevention【？】は本来スペルアウトするはずなので指摘した。

松倉：そういうことですね。わかりました。ここもエディターノートで対応かと思う。

「パブリックセキュリティメタデータ」から読み上げ：松倉

松倉：点がなくて読みづらいが、そこは修正する。それ以外ではあるか。

川口：sub protocolの部分は私の指摘が反映されていないので確認されたい。

松倉：指摘されたものが正しいので修正版に反映する。

芦村：ウィキペディアレベルでもいいので誰かの用語定義はちゃんと見ておけば良かったかもしれない。

松倉：常に差分で見ていくものなので難しいのだと思う。

芦村：細かいところだが、「サービアント」なのか、つい「サービエント」と読んでしまうところ。

松倉：まずそこは訳すか。訳さないのであればそこを気にする必要はない。

全員：（訳すのは）やめましょう。ということで統一。

「TD」から読み上げ：芦村

芦村：難しい。概念が難しい。点がなく文が長いということもある。

･･･【接続切れ】･･･

芦村：･･･という方がわかりやすいのではないか。

松倉：簡潔な説明があればいいが、下手すると本文よりも長くなってしまう。

芦村：直すというよりは脚注的に説明したいか否かかと思う。

松倉：とりあえず原文を知っている我々が読んで内容に相違ないようであれば進めたい。

川口：表現にブレだけの問題だが、「リンクデータ」をカタカナで書いてあったところがあるが、「linked date」と英語で書いているところもあり、統一を図るべき。

松倉：その辺は最後に見直して統一を図りたい。

芦村：これは注意書き的に丸付けておかなくて良いか（印をつける機能を使わなくて良いか）。

松倉：もちろんできるが、手元でメモしているので、後で添削してしまおうと思う。

稲森：「コアアールデイ」はそのままで大丈夫か。

芦村：これは文献扱いなのでしょうがないと思う。

松倉：これは参照番号のようなもので、後ろの方に参照文献があり、この単語でリファーされている。対応づけているだけなので、大括弧付のものは下の方にあるのでそこを見れば分かる仕組み。

稲森：承知した。

芦村：ワードでテキストにした場合にはリンクになっていないが、脚注で突き合せてという趣旨。

松倉：ワードの機能で結びつけられる。ただ、PDFになった際に落ちてしまう。フラグメントリンクはPDFではつかない。

川口：ツールによっては付けられるのではないか。

松倉：ワードでPDFにした際に付いているか確認する。目次から本文に飛ぶことはできたと思うが、できるかもしれない。

芦村：Webページに置いてあればリンクは飛べるが、印刷してしまえば飛べないのでその辺は付き合わせてもらうという趣旨で良いのではないかと思うが、TTCではリンクになっているのか。

松倉：リンクになっていない。TTCはほとんど紙の論文扱い。

芦村：アイアナでメディアタイプを登録しようとしているやつも実際は、アイアナはテキストでデータベースを持っているので、リンクではなく、スペルアウトしてくださいということがあったが、それと同様だと思う。

「バーチャルシング」から読み上げ：川口

芦村：virtualは「仮想的」で良いのではないか。形容詞っぽくて良いのではないか。このままカタカナのままで良いということもある。

松倉：「バーチャル」はカタカナでThingは英語のままということか。これはあまりでてこない。

芦村：では、英語のままで良いのではないか。Scripting APIのところで、「標準規格ではない」とはoptionalの訳かと思うが、ここはどうするか。

松倉：informativeとoptionalといろいろと同じようなことが言い分けられている。そこを分けるか、そのままにするか。意味はどういう意味なのか。

川口：原文はoptionalだったと思う。「標準規格であってもand treat optional【？】がある」ということなので、「オプションの」ということと「標準規格でない」ということは同じではなく直行する【？】概念だと思う。

松倉：わかりました。

芦村：optional自体は「任意の」というような「マストではない」くらいの意味かと思う。

川口：時間的に【？】scriptingがどちらでもなくなってしまったのでわかりにくくはなっているが、原文の趣旨を尊重するとそういうことかと思う。

松倉：そうすると、optionalは、2章のところでmayやshouldのどれかにあたるということか。その辺の言い方を合わせておきたい。mayか。

川口：mayのかたまりか。これもややこしい。

松倉：optionと書いたときに、ここの定義からするとどうなるか。マンダトリ－をしなければmustか。

川口：「標準規格であって必須であるもの」はmustで、「必須でないもの」は基本的にはmay。

松倉：ここでオプションと書くか否か。オプションが使われているところは意外と多い。オプションの定義がないので困っている。2章に追加するか。注入りで書いてしまえばいいのだが。Actionはどうするか、日本語にするか。

芦村：property、action、eventはカタカナで良いのではないか。一応カタカナにしておいてあげた方が良いのではないか。

松倉：本文中もということか。現状は、英語にしているところが多い。最後まで読んで、最初に戻るということにする。読んでいるうちに気持ちが変わるかもしれない。

　修正されているものがマージされていなかったので、次回までマージしておく。

○次回の予定

松倉：次回は来週の金曜日だが、参加できる方で進めようと思う。1/31も同じ時間で、6章の3までは割り振っているのでその範囲で進めたいと思う。

東村：その日は不在。

川口：全般的に不具合が多いので、次回はZoomスタートにしてみればと思う。

以上